

熊谷市指定文化財「集福寺境内・建造物群」概要報告

—集福寺における伽藍形式・建造物群の概要及び記念物・史跡指定の意義をめぐって—

熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

1 集福寺について（概要）

集福寺の創建は、永仁年間（1293～1299）由良法燈圓明國師によって臨濟宗法燈派の本山として開かれたと伝えられている。その後、天文年間（1532～1555）に、忍城主成田下総守親泰が開基となり、永平道元禅師法孫桂室秀芳大和尚を開祖とし、曹洞宗に改宗され、現在に至る。6世桂岩宗嫩大和尚は、徳川家康が鷹狩で当寺に寄られ、御目見を許され、家康の招きにより江戸神田（のち駒込）に寺地を賜り、金峯山高林寺を開山している。慶安年間（1648～1651）、寺領20石の御朱印状を賜っている。

その後、広大な敷地に七堂伽藍を備え、多くの末寺を擁し、本寺は本寺格の寺院として幡羅郡下有数の名刹である。また、慈善家の歴代の吉田市右衛門家の寄進が大きく、本堂の改修などにも吉田家が果たした役割が大きいと考えられる。

本堂などの堂宇は、江戸時代中期まで2回にわたる火災により類焼し、現在の諸堂は、江戸時代後期に建てられたもので、法堂、仏殿、祖堂等を回廊で結び、内部に鐘楼を設けた七堂伽藍を備えた配置となっている。

『新編武蔵風土記稿』に記された集福寺の項目は、次のとおりである。

（下奈良村）集福寺 禅宗曹洞派、上野國新田郡太田町金龍寺末、萬頂山と號す、二十石の寺領は慶安九年十一月三日御朱印を附せらる、相傳ふ往昔は臨濟派にて、開山圓明國師は永仁六年十月十三日寂せり、其後永正年中桂室秀芳と云僧、曹洞派に改めしより今開山とす、此僧天文十八年六月十八日寂せり、開基は式部大輔助高十代成田下総守親泰、法名貞岡宗蓮菴主と號す、入道して當村に隱棲を營み、即當寺を造建し、大永四年六月八日卒す、居蹟は當寺境内より少しく西の方にありし由、今は其處詳ならず、同氏の系圖にも當村に隱居し、當寺を造しこと見ゆ、御打入の後東照宮忍城より此邊御放鷹の時、當寺へ成らせられ、住僧桂岩へ御目見仰付られ、其後慶長年中江戸へ召されし時、元神田蔵王権現の舊蹟に於て寺地を賜はり、一寺を草創して金峯山高林寺と號し、蔵王権現を鎮守とせり、後替地を給ひ本郷へ遷り、又駒込へ遷りて、今は當寺の末となれり、桂岩は慶長三年十月廿九日寂す、本尊三尊の釋迦を安ぜり、又天正年中太閤より出せし禁制の文書を蔵す。（文書面省略）

鐘楼。鐘銘中に元和年中、郡中道ヶ谷戸鈴木主税助重繩寄附の鐘なりしが、延寶六年九月廿一日其子孫再鑄せしことを載す、此主税助は成田氏の家人なりしと云事は、道ヶ谷戸に辨ぜん。

白山社。稻荷社。天神社。佛殿、釋迦を安ず。衆寮。禅堂。下馬札、この下馬札は東照宮當寺へ成らせられ、桂岩御目見せしとき賜ふといへど、古成田氏造立の頃より建たるものにや。

このように『新編武蔵風土記稿』で、寺院の開基に係る経緯と、江戸時代後期における境内及び建造物群の概要が確認できる。他に集福寺所有の関連資料で、寺伝を含め以降の建造物の建立と改修に係る情報資料が残されており、平成21年度～令和2年度には、埼玉建築士会大里支部による調査が行われている。

2 集福寺境内及び建造物群の概要

① 法堂（本堂）

天文年間（1532～1554）に、成田親泰により建てられた本堂は、元禄7年（1694）に火災に遭い、正徳元年（1711）に十四世崑山黒翁和尚が再建している。しかし、寛政5年（1793年）に再度火災に遭い、江戸時代後期の嘉永年間（1848～1853）に十八世扇泉義契大和尚が再々建し現在に至る。なお、向拝の柱の上部破風に、二度と火災が起きないように願いをこめた「蛙」の彫刻が施されている。

法堂の本尊は釈迦牟尼佛で、両側に伽葉尊者・阿難尊者・十六羅漢が祀られ、右側に大権修理菩薩（正法護持）、左側に菩提達磨大師（中国に佛教を伝えた）が祀られている。さらに欄間には龍・天女・菩



薩等の舞う絢爛の彫刻があり、内陣には二十一世學海賢隆大和尚の代に描かれた天井絵、室中の板戸には松と梅の絵等が描かれている。

弘化4年(1847)には、欄間などの主要彫刻を小川専蔵義長が担った。天保13年(1842)には、格天井絵が、小曾根村の磯部直右衛門を施主として寄進されたが、絵師は不明である。

② 玄関

本堂の再建期の嘉永年間(1848~1853)に建立されたもので、法堂と東側の庫裡を接続している。破風が前面に出ており、懸魚等の彫刻が見られる。



③ 鐘楼

安永8年(1779)に建立され、弁柄漆が各所に塗られている。昭和時代まで使われていた鐘楼の銘には正徳2年(1712)の記載があり、創建期に合わせて建立されたことが推定できるが、その後、再建された。



④ 仏殿

山門と法堂の間に位置し、鐘楼と同時期の安永8年(1779)年頃に建立され、集福寺境内の中では最高層の建造物である。正面の扁額には「祈祷」と書かれている。堂内には「祝聖」(今上天皇の聖寿無窮を祈る)、「修正」(新しい年吉祥を祈る)、「満散」(法会が終わる)の扁額が掲げられている。仏殿の内部には、釈迦牟尼佛、文殊菩薩、普賢菩薩、十六善神が祀られている。その他、「大般若経六百卷」の第



一卷と六百卷には、無學愚禪大和尚の添書があり、それによれば吉田市右衛門家によって文政4年(1821)に納められたことが分かる。

⑤ 祖堂

仏殿と同時期の安永年間(1772~1780)の建立とされ、高祖永平開山大和尚道元大禪師と桂室秀芳大和尚の尊像が安置されている。



また、寺の開山に関わった由良法燈圓明國師大和尚や、歴代の大和尚、卍山道白大和尚、無學愚禪大和尚の位牌、開基奈良院殿貞岡宗廉大居士(成田親泰)、吉田市右衛門家の位牌等が祀られている。かつては土間であったが、明治期に基礎上げされ、床に大谷石が敷き詰められている。

⑥ 回廊(西側・東側)

法堂と仏殿を囲み、庫裡と祖堂へと接続する建造物であり、現在は西側及び東側に残されている。建立期は江戸時代中期頃、法堂の建立期に再建されている。昭和時代に、基礎の補修及び土間の部分のコンクリート敷設を行った。東側の回廊の屈折部には、愚禪和尚による書の奉納額「明王殿」が掲げられている。



(写真上：西側回廊
下：東側回廊)

⑦ 禅堂(新座敷)

本堂の再建期の嘉永年間(1848~1853)の建立と推定される。

瓦葺きの平屋建て形式で、禅寺における僧侶の住まいであった。近代になると、檀家総代等が利用する会合施設になった。



⑧ 山門

現在の山門は、法堂（本堂）が再建された江戸時代中期頃の建造物である。

寺の創建期に境内南側に建立された当初の山門は、寺伝によると、豊臣家の一群が敵に追われ、難を逃れ山門を閉じて一命を取り留めた由来がある。豊臣秀吉より「殺生禁制札」を拝領したとされ、以降、現在でも閉じられており、「不開門」との名称もある。左右に塀が接続し、木鼻等の彫刻が配置されている。



⑨ 通用門（東門）

江戸時代後期、嘉永年間（1848～1853）の建立と伝わる。

瓦葺の四脚門で、弁柄漆による赤色が残る。昭和50年代に色の塗り直し等の補修が加えられた。



⑩ 水屋

法堂と仏殿の中間西側に位置し、明治時代初期の建立で、昭和20年代に改修が行われた。かつては井戸水の取水弁が近くにあったが、現在は水道となり、その改修に際して、昭和29年頃当初より北側の現在の位置に移設された。



⑪ 神明社

仏殿と通用門の間に位置し、江戸時代中期頃の仏殿建立期と同じ頃に建立されたとされる。祇園社、稻荷社、天満社の三社が一体となっている間取り構造をしている。明治時代の神仏分離の際に近隣の神社に分祀されたとされるが、その後も当寺の行事においては祭礼等で使用している。昭和時代に入り基礎部のコンクリート固め等の改修がなされた。



3 集福寺境内及び建造物群の特徴

集福寺境内及び建造物群において特筆すべき特徴の一つは、仏教の歴史とも関わる寺院の境内配置と建造物の構造である「七堂伽藍」形式が、現在まで残していることにある。

埼玉県内において、江戸時代建立の伽藍形式が残されている例は少なく、さいたま市の慈眼寺及び坂田市の永源寺等にその建築を見るに留まる。かつては、新座市の平林寺の広大な境内に伽藍形式の建築が残され、その各棟は国及び県指定文化財となっているが、建物配置としての伽藍は残存していない。

集福寺の建造物群は、江戸時代後期の建立が主要であるが、伽藍形式が維持されているとともに、各建造物の技術的な水準が高く、法堂（本堂）及び仏殿の建築様式は、当時の社寺建築の変遷を知る上でも貴重な事例である。また、吉田市右衛門を中心とする地元の名主等が協力し、寺院の保存に努めたことの意義は大きく、境内地の保存も継続的に行われてきた経緯がある。北側に広がる境内林は埼玉県の「ふるさとの森」に選定され、寺院とともに一体となった自然景観は次世代に残す遺産である。

よって、地域信仰に基づく寺院保存が現代に引き継がれたことの歴史的背景は高く評価できる。

なお、近世以降の伽藍形式の継承については、原初的な禅堂建築の思想とは異なる一面も考えられ、現在の保存された伽藍の方式とその意図については、集福寺が有する関連文書等の調査研究の必要性を一つの課題として結びに提示したい。

主要参考文献・資料

・熊谷市教育委員会『熊谷市誕生10周年記念事業：熊谷市文化財ガイドブック』熊谷市立江南文化財センター/編 2016年・熊谷市教育委員会『妻沼聖天山建造物群・市内建造物調査報告』2016年・熊谷市教育委員会『熊谷市史別編2 妻沼聖天山の建築』2016年・ものづくり大学横山研究室『旧成田領に残る歴史遺産』埼玉新聞社 2012年・埼玉県教育委員会『埼玉の近世社寺建築：埼玉県近世社寺建築緊急調査報告書』1984年・埼玉県教育委員会『埼玉県の近代和風建築：埼玉県近代和風建築総合調査報告書』2017年・山下祐樹、金子兜太『熊谷ルネッサンス—熊谷の歴史と文化遺産を結ぶ「道」—金子兜太「熊谷の俳句」』オーケーデザイン 2017年・集福寺『萬頂山 集福寺』（埼玉建築士会大里支部作成協力）・山下祐樹、細川末廣「集福寺建造物群概要調査報告」2021年

